

A[”] アアルト大学 化学技術学部

(フィンランド共和国)

(Aalto University School of Chemical Technology)

交流協定締結年月日：2007年3月13日 主管学部：農学部



アアルト大学大講堂



希少糖製造装置

国際交流の特色(大学紹介)

本大学はヘルシンキの3大学が2010年に統合されてスタートした。そのうちの1つである化学技術学部は、前身がヘルシンキ工科大学で首都ヘルシンキの郊外のエスポー市オタニエミにある。香川大学農学部から生まれた希少糖研究とは密接な関係にあり、キシリトールの研究開発で有名である。生物を利用した新しい触媒酵素の開発やタンパク工学、代謝工学、プロセス工学など生物が拘るあらゆる物質生産技術を学問的に体系的に、教育研究している。その他、生化学、微生物学、化学工学、工業化学、無機化学、分析化学の教育研究を行っている。

交流実績(平成25年度～27年度)

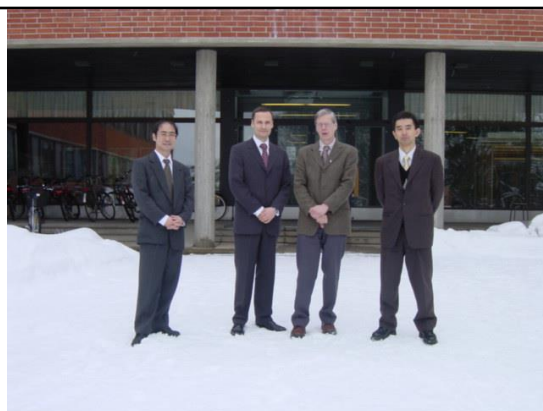
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
研究者受入	1	0	0
研究者派遣	1	0	0

教員からの声

希少糖の一種であるキシリトール生産の研究が活発に行われており、その第一人者で、本学の客員教授でもあるM.レイソーラ教授と我々は、希少糖に関連した共同研究を行っています。これまでに学生の留学などの交流はありませんが、これから行う予定です。

単科大学としてはキャンパスはかなり広く、研究施設も非常に充実しています。フィンランド人は日本人に似た気質で真面目で勤勉と聞いてます。平成18年度までDr.T.グランストロームを教員として受け入れ深く研究交流を行ってきました。現在は、これからも同校と本学との共同研究を推進していくことになっています。

希少糖研究センター 森本兼司



アアルト大学化学技術学部前での記念撮影

アアルト大学化学技術学部

(Aalto University School of Chemical Technology)

ホームページ <http://chem.aalto.fi/en/>

●学部学生

1,360人

●教職員

537人

●大学院生

401人

●留学生

57人